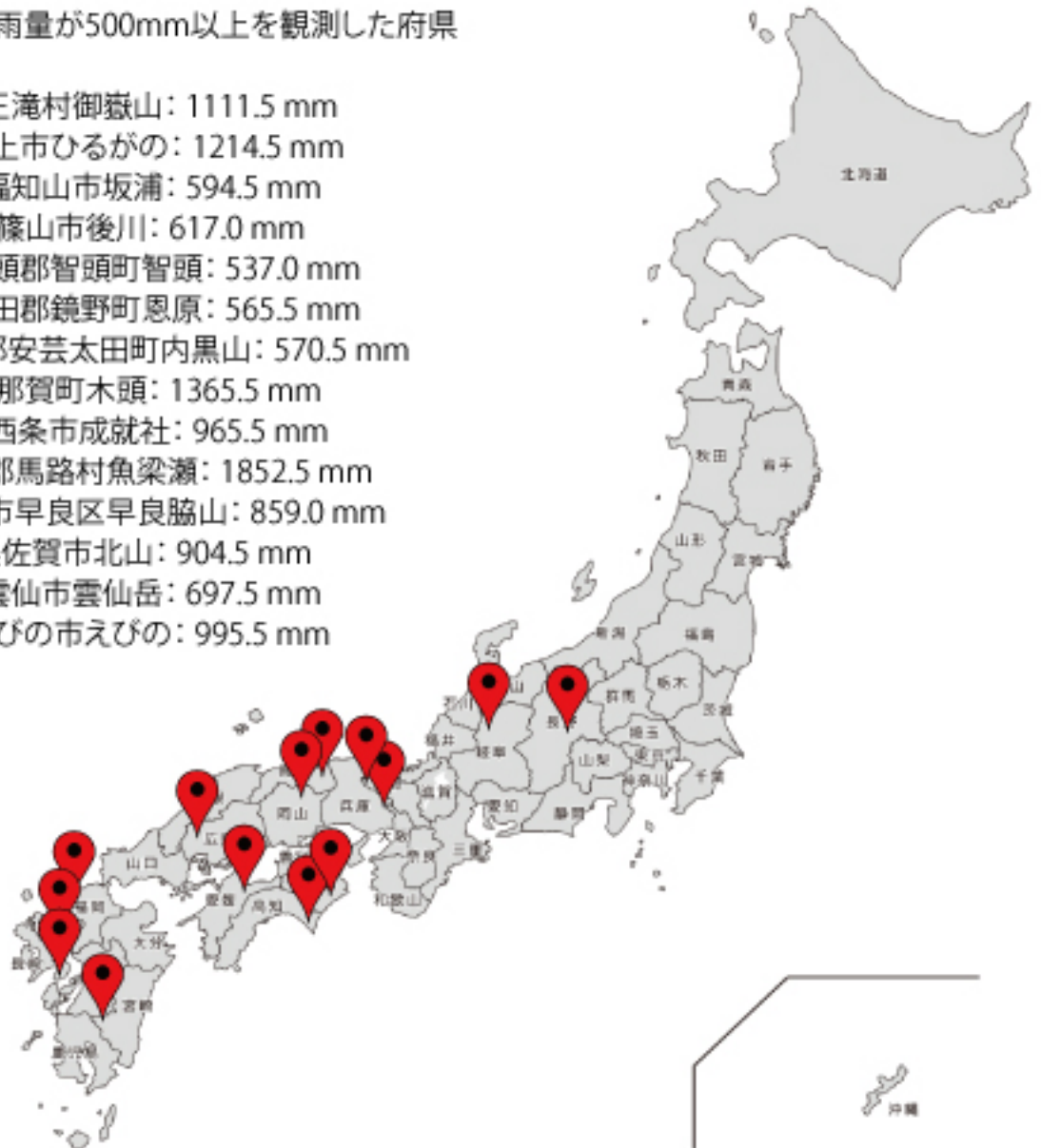


- 西日本豪雨記録 -

2018年(平成30年)6月28日以降、西日本を中心に北海道や中部地方など全国的に広い範囲で記録された台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨である[1]。2018年7月9日に気象庁が命名

*期間内の総降雨量が500mm以上を観測した府県

- 長野県王滝村御嶽山: 1111.5 mm
- 岐阜県郡上市ひるがの: 1214.5 mm
- 京都府福知山市坂浦: 594.5 mm
- 兵庫県篠山市後川: 617.0 mm
- 鳥取県八頭郡智頭町智頭: 537.0 mm
- 岡山県苫田郡鏡野町恩原: 565.5 mm
- 広島県山県郡安芸太田町内黒山: 570.5 mm
- 徳島県那賀町木頭: 1365.5 mm
- 愛媛県西条市成就社: 965.5 mm
- 高知県安芸郡馬路村魚梁瀬: 1852.5 mm
- 福岡県福岡市早良区早良脇山: 859.0 mm
- 佐賀県佐賀市北山: 904.5 mm
- 長崎県雲仙市雲仙岳: 697.5 mm
- 宮崎県えびの市えびの: 995.5 mm



府県別の被害(人)

府県名	死者	行方不明者
岐阜	1	0
滋賀	1	0
京都	5	0
兵庫	2	0
奈良	0	1
鳥取	0	0
岡山	60	6
広島	90	39
山口	3	0
愛媛	26	2
高知	3	0
福岡	4	0
佐賀	2	0
長崎	0	0
宮崎	1	0
鹿児島	2	0
合計	200	48

※14日現在、 は大雨特別警報が出た府県



- 被害状況 -

断水被害も広島、岡山、愛媛を中心に11府県約24万戸
真備町では高梁(たかはし)川の支流・小田川の堤防が決壊し、
町全体の27%が浸水。死者は計46人

* 今回被害の大きかった岡山県倉敷市真備町を例に取り上げる



記録的な大雨により広範囲で浸水被害が発生した岡山県倉敷市真備町(約8900世帯)では、
付近を流れる高梁川支流の決壊で約4500棟が冠水するなど甚大な被害が起きた



堤防は設けられているが、川から堤防までの距離が短い。
妻沼と真備町は人口や面積、川、堤防を有するなど比較対象になる。

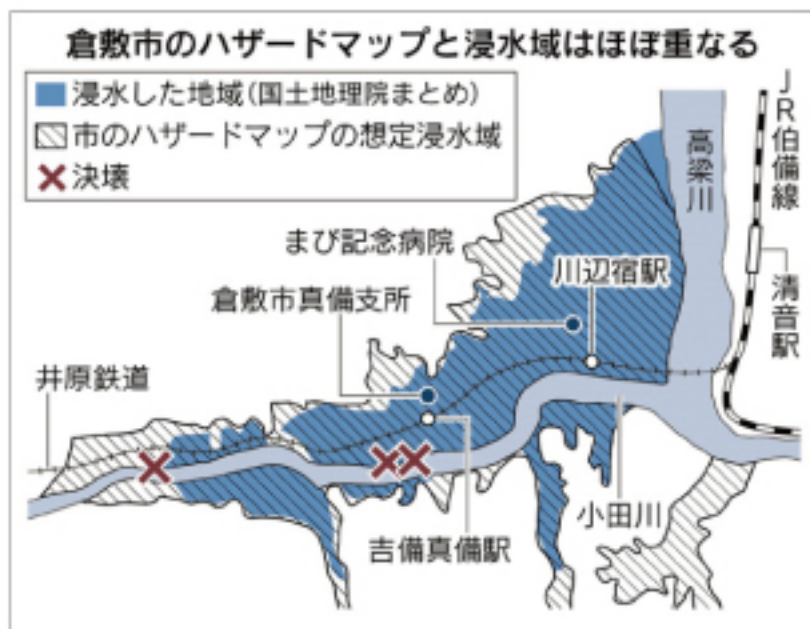
埼玉県熊谷市妻沼	岡山県倉敷市真備町
面積 36.27km ²	面積 44.08km ²
総人口 27,277人	総人口 22,970人

真備町は川から堤防まで約133mに対し、妻沼は川(利根川)から堤防まで約650m。
約5倍川から堤防まで距離があるが今回真備町での堤防決壊については
岡山大の前野詩朗教授(河川工学)がこう述べている。

今回の決壊は、高梁川と小田川の合流地点付近が湾曲して水が流れにくくなっているため、
上流側の水位が上昇する「バックウォーター現象」が起きたことが原因とみられる。

流れなくなった水は勾配が緩やかな小田川の方にたまりやすく、決壊したという見方を示した。

妻沼を流れる利根川は河川の合流地点はないのでバックウォーター現象は考えにくい
熊谷市防災ハザードマップによると 3日間総雨量 318mm 以上 降ると決壊の恐れがあると指摘。
今回のような豪雨が関東地方で起きた場合、予想以上の被害が想定される。



倉敷市洪水・土砂災害ハザードマップ（平成28年8月作成、平成29年2月更新）の精度が高い！
市区町村で配布されているハザードマップと今回の事例を照らし合わせ
今一度防災に対する意識を再確認したいところ。

- 被災状況 -

避難所での集団生活や、土ぼこりが舞う屋外での復旧作業が長引くと、呼吸器疾患のリスクは高まる。ぜんそく患者は特にマスク着用や手洗いうがいの励行、部屋の換気、床をぬれた雑巾で拭くなどの予防策が欠かせない。

日本呼吸器学会は「症状が落ち着いていても環境の変化やストレスで症状が出る可能性もある」と、定期的な薬の服用を呼び掛けている。避難所での偏った食事やストレスは抵抗力を奪う。

埼玉医科大が宮城県気仙沼市で行った調査によると、2011年3月の東日本大震災直後、インフルエンザの流行はなかったのに、肺炎による入院患者は高齢者を中心に通常の6倍、死者は9倍にも増えた。

さらに夏場には、食中毒や手足口病などの感染症が広がりやすい。

日本環境感染学会は、こまめにせっけんとう流水で手を洗う。タオルの貸し借りは避ける。せきやくしゃみをする時は口と鼻をティッシュや肘の内側で覆うーなどと求める。

屋外作業時は、土ぼこりに含まれるレジオネラ菌などをマスクで防ぎ、破傷風などから肌を守る対策が必要だ。蚊やダニなどの虫よけも欠かせない。

中島一敏・大東文化大教授（感染症疫学）は「普段なら抑えられる病気でも抑えにくくなるのが災害現場。十分な食事と適度な運動を心掛けてほしい」と指摘する。

眼病の訴えも相次ぐ。日本眼科医会と岡山県眼科医会は15～16日、同県倉敷市真備町地区の2カ所の避難所で無料の出前診療をした。

受診した92人のうち、半数以上が結膜炎、4人が角膜炎と診断された。

診察した日本眼科医会の浅井利通理事は「汚れた手で目を触らないように気を付け、屋外作業中はできればゴーグルを着けてほしい。異常を感じたら医師に相談を」と呼び掛ける。

災害から一週間。7/13 facebook より現地の声を抜粋

支援物資は時期がズレると状況により必要なものが変わってきます。物資が過多になることもあります。おかげさまで衣料は揃ってきました。ただし、水、レトルトカレーや缶詰などまだまだ不足しています。

*リアルタイムに必要なもの

- *紙コップ *割り箸 *歯ブラシ/歯磨き粉 *洗顔 *くし *化粧水 *コットン
- *長靴/靴/サンダル/スリッパ *防虫製品(蚊取り線香など)*生理用品 *ティッシュ *トイレットペーパー

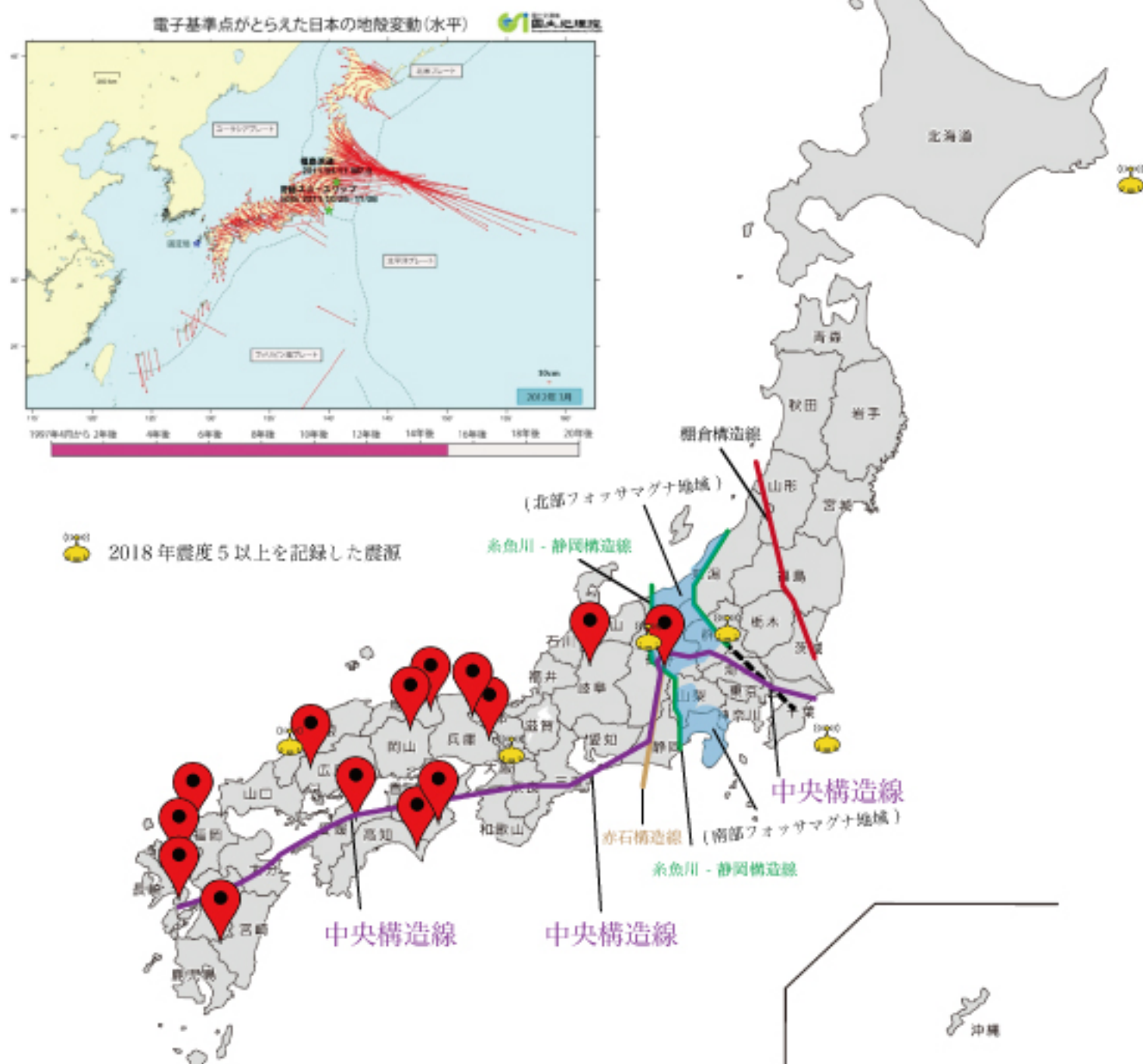
外国人や集団組織による孤立してしまった被災地を狙った犯罪をよく耳にします。

レスQ隊を装った強盗、それから強姦被害にあったという話も珍しくないので要注意！被災地でデマはつきものだが、情報が錯綜とする中、冷静かつ的確な判断が求められる

- 西日本豪雨と断層、地震との関係 -

＊国土交通省 国土地理院によるデータ

3.11 震災後、震源地の方向にエネルギーが幅ってしまった。



＊近年、中央構造線の付近で豪雨による災害、地震が頻発している
(火山活動や天体の関係性については割愛します)

＊3.11 後、太平洋側ではスロースリップや地滑りなど地殻変動が相次いでいる。(福島/茨城/千葉)

＊大阪北部地震*6弱(6/18)の後、群馬県渋川で5弱。

＊西日本豪雨の最中、千葉県東方沖で5弱。(福島/茨城/千葉では震度1-4の有感地震は今でも多い)
何れにしても地殻エネルギーは国土地理院のデータに関係している模様。

2018/5 以降のデータを元にまとめました。

あつてはなりませんがもしもの場合、自分がどんな環境でどんな状況になるかわかりません。

災害は未然に防ぐことはできませんが、このようなデータを元に少しでも危機管理能力がつけばと思います。